

本報告書は、学校法人巨樹の会 武雄看護リハビリテーション学校の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

令和7年3月31日

令和6年度（2024年度）

学校長 太田 貞武

学校関係者評価 報告書

学校評価実施責任者

副学校長 木村 公治（令和6年度）

教務部長 山本裕宣 納富裕子

学校法人巨樹の会
武雄看護リハビリテーション学校
理学療法学科・看護学科

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況
 - 1) 学校関係者評価の目的、方針
 - 2) 学校関係者評価委員
 - 3) 学校関係者評価委員会の開催
 - 4) 学校関係者評価方法
2. 学校関係者評価の内容
 - 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 - 項目Ⅱ 学校運営
 - 項目Ⅲ 教育活動
 - 項目Ⅳ 学修成果
 - 項目Ⅴ 学生支援
 - 項目Ⅵ 教育環境
 - 項目Ⅶ 学生の受け入れ、募集
 - 項目Ⅷ 財務
 - 項目Ⅷ 法令等の遵守
 - 項目Ⅸ 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

委員氏名	所属	選出区分
青木 勝彦	佐賀学園高等学校 学校長	高等学校
松尾 徹	社会福祉協議会 常任理事	地域住民
山口 真由美	武雄市役所 福祉部 健康課参事	地方公共団体
牛島 美智子	新武雄病院 看護部長	企業
鬼塚 北斗	新武雄病院医療技術部長兼リハビリテーション科課長	企業
中村 佳奈	新武雄病院 看護師 (第4回 卒業生)	卒業生
前田 千明	新武雄病院 理学療法士 (第3期 卒業生)	卒業生

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

- 第1回委員会 日 時:令和6年9月27日(金) 15:00 ~ 17:00
場 所:武雄看護リハビリテーション学校 会議室
- 第2回委員会 日 時:令和7年3月6日(木) 15:00 ~ 17:00
場 所:武雄看護リハビリテーション学校 会議室

4) 学校関係者評価方法

令和6年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果および内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評価基準にて実施する。

【評定基準】

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
- A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念として「人間愛・自己実現」を定めており、人材育成像としては学校スローガン「夢叶うこころ豊かな医療人になるために」を軸として、3つの心「温かい心」「思いやる心」「感謝する心」と具体的に明示している。

これらの教育方針はパンフレット、便覧、ホームページなどで広く周知徹底している。学生、保護者へも行事や通知等で目標を示すことができている。

各年度の重点目標となる教育方針は、毎年学校長より明確に提示され、教職員へ周知されているため職員が理解した上で職務に取り組んでいる。また、両学科ともに本校の教育理念・目的・人材育成像を踏まえたカリキュラムを作成し実践している。教育理念はホームページでもわかりやすく公表し、改善し、よりわかりやすい内容に作成できた。

課題

教育理念・目標・スローガンに関しての教育評価として、学生側の目線で評価視点を参考にすることで、職員・学生間の目標をより共有できると考える。

改善の方策

次年度は、学生の学習効果の評価や意見も評価視点として参考にしていく。

学校関係者評価委員会からの意見

毎年、教育方針が明確に打ち出され、それに沿って学校運営がなされている。

学生からの評価も参考にし、学校・学生双方から評価をして学校運営に取り組んでいくと良い。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

総括に記載の通り定められている。

小項目Ⅰ-2

学校の理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

学生・保護者・関係業界からの意見・評価も参考にすると今後の取り組みの課題を明確にでき

ると考える。

小項目Ⅰ-3

各学科の教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適合

■コメント

両学科とも、本校の教育理念・目的・人材育成像を踏まえたカリキュラムを作成し実践している。

看護学科ではカリキュラム改正後、完成年度を迎えた。カリキュラムの編成と実施が適切に行われたか評価を行い、これからの看護師に求められるものを考慮して社会に貢献できる学生を教育するための質の向上に繋げていきたいと考える。

項目Ⅱ 学校運営

総括

毎年の教育目標について4月初めに学校長より具体的な目標提示があり、教職員へ方針が示された上でスタートしている。今年度の目標として、①就職試験・国家試験100%達成、②定数確保、③定着率100%達成、④自然災害や感染症に対する臨機応変な危機管理、⑤学校の活性化が揚げられている。そのために教職員の指導力の強化やスピード感、優先順位を持った行動をとることが示され、教職員全員が意識し実践している。また学生の自主的な取り組み、ボランティア活動の実践もできた。意思決定機能については、運営会議(月1回)や管理会議(週1回)などで、学校長から運営方針に沿った指導・助言をしていただくため、教職員の共通理解が出来ている。

情報システム化については、今年度は、生成系AIであるGoogle Gemini(ジェミニ)がグループ校で紹介され、一部教員で活用が始まっている。その他、業務内容や職員間の業務負担の見直しを行っていく必要があると考える。

課題

今後さらなる業務効率化のために、学内の会議のペーパーレス化や会議資料作成でGoogle Driveを活用するなどGoogle Workspaceや生成系AIの有効活用をはかっていきたいと考える。

改善の方策

職員全体で活用方法を共有し、学内全体での運用が活発に行えるようにする。情報管理に関するマニュアルの見直しを行う。

学校関係者評価委員会からの意見

DXが推進されていることで毎年対策が更新されており、改善の余地があるとしても、前年度より対策が進み、学生や保護者が便利になったと評価しているのであればその点を学校側も良い方へ自己評価をしても良いのではないかと考える。

小項目 II-1

目的等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今年の目標としては、就職内定や国家資格取得に向けて教職員の指導力の強化やスピード感や優先順位を持った行動が掲げられ、教職員が意識して実践した。ボランティアとして、SAGA 2024全国障害者スポーツ大会へ1・2年生全員で参加できた。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学校長を中心として指示命令系統は明確であり、各種会議にて審議を行っている。また、毎日の朝礼時や学科会議で現状を共有、把握して教職員がスピード感のある行動が取れるように運営している。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

会議資料のペーパーレス化や Google Workspace や生成系 AI の有効活用について職員全体で共有していく必要がある。

項目III 教育活動**総括**

両学科ともに学校理念や教育目標、カリキュラムに沿った体系的で組織的な教育を実施している。学生に対しては、シラバスの中で各科目の体系的な位置付けや教育方法など明確に記載できている。

新入生に対しては、学習習慣・生活習慣の確立や自主性を促し、理学療法士、看護師としてのキャリアデザインを構築して学校行事の中で学生達の自主的な行動を促し、活性化につなげていくことが出来た。

教員の資質向上については教育目標にも掲げられており、優先順位を考えながら各教員が「職責と職務」を念頭に置いて教務に取り組んだ。専門領域での教育の質を高める努力と今後は、更なる自己研鑽に努め他の領域の内容も学習し幅を広げていくことが必要である。

課題

理学療法学科では、カリキュラムツリーの再検討を活かし、シラバスも学生が学びやすいよう一部改正を実施していく必要がある。

看護学科は、カリキュラム評価を行い次年度の教育への課題を明確にする必要がある。

改善の方策

教員全体が教育理念やポリシー、カリキュラム全体像をしっかりと把握する必要がある。そのうえで常に新しい情報を取り入れながら、学生が主体的で能動的な学びをするための工夫を実践していけるよう教員間での情報共有や授業評価による自己研鑽を実施していく。

学校関係者評価委員会からの意見

学校の教育方針に沿った、教育が実践されている。

小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

理学療法学科では法人のカリキュラム委員会を通してカリキュラムツリーの見直しを行った。

看護学科は地域・多職種連携の科目を通じて人間力を育むことができています。

小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

本校の特徴を活かし、看護学科・理学療法学科との多職種連携授業も導入している。授業評価をもとに、今後は、よりブラッシュアップしていく必要がある。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

評価体制は構築しているが、評価項目の妥当性や結果の活用方法を検討していく必要性はある。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

国家資格取得に向けて1年次から対策を図っており、学生達の性格も把握しながら3年間を見据えて、学生達の学ぶ力を育成している。今年は薬物乱用に関してのセミナーも実施した。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学生や教員からの授業評価や学校法人の中央研修、学会参加など教育の質向上のための環境は整っている。今年度は対面の研修会も増え、法人内の研修にとどまらず外部研修にも参加することが出来た。研修後の振り返りと学生・学校への貢献に努める。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職は、開校以来11年連続100%を達成できている。面接や履歴書の個別指導など細かな対応をしている。

国家試験の合格率は、理学療法学科は41名全員合格となり4年連続100%を達成することができた。看護学科は、41名全員合格、入学時より全員進級、全員国家試験受験で100%を達成することができた。

退学率低減に対する取り組みとして、早期からの学習支援、悩みや不安を抱えている学生への個別相談、専門家によるカウンセリングなどを実施している。また、教員会議で情報共有し統一した指導になるよう留意している。しかし、理学療法学科では7名、看護学科では1名の進路変更者がでた。

在校生の社会活動(スポーツやボランティア)を把握しながら成果を表彰することもあった。

課題

退学者0を目指す。

両学科とも国家試験全員合格のために、学生に応じた学習対策とメンタルサポートを図っていく。

改善の方策

まずは教員間の意思を統一し、上記課題の達成を目指す。学生たちが全員皆勤できるような学校環境を目指す。また、次年度も卒業生の就職施設を訪問し、本校の教育に関するアンケートを収集して課題を整理し学内指導へ活かす。

学校関係者評価委員会からの意見

関連病院への就職が多いので、関連病院と学校が連携し卒後の情報把握や卒業教育に取り組んでも良いのではないかと。また、同窓会を開催することで卒業生同士の情報交換や卒業生の動向と活躍を学校側も把握できるのではないかと。

小項目 Ⅳ-1

就職率の維持が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

就職希望者看護学科41名、理学療法学科41名が年内に100%内定を達成することが出来た。より早期に希望施設への内定を獲得し、安心して国家試験対策に取り組むことができるように支援していきたい。

項目 Ⅳ-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

近年は覚えるだけでは解答できず、思考力を要する問題が増加している。今年度の取り組み状況を振り返り、次年度も両学科100%合格が達成できるように教員全体の意識を高め、学生の思考力を養っていく。

小項目 Ⅳ-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

退学率)

定着率に対する担任の意識が高まり、定着率が向上している。

看護学科:1年生1名進路変更。

理学療法学科:1年生4名進路変更。2年生1名進路変更。3年生2名進路変更。

小項目 IV-4

在校生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

SAGA2024 全国障害者スポーツ大会をはじめ、地域の施設や行事に積極的に参加し、様々な経験の中から学びを得ることができた。理学療法学科の2年生1名が、アーチェリー競技の大会運営委員を務めるなど、社会活動で活躍する学生もいる。

小項目 IV-5

卒業生の社会的な活躍を把握し、教育活動の改善に活用されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

両学科ともに卒業生が来校することが多く、その際には現状把握や情報交換を行っている。また、卒業生が就職説明会へ求人担当として来校したり、外部講師として教育活動へ協力してくれたりしている。

理学療法学科では、今年度も卒業生の職場訪問を行い、その結果を教育課程編成委員会で話し合い、校内教育の課題として振り返った。

項目 V 学生支援

総括

就職活動は、学校長を含め職員全員で支援する体制をとっている。今年度も両学科とも早期に全員が内定をいただくことができた。理学療法学科は、受験倍率が高い就職先も多かったが全教員で関わることで多くの学生が内定(関連へ7割)することができた。また、キャリア支援として理学療法学科2年生も就職説明会に参加し示唆を得ることができた。

学生の相談窓口としては、担任を中心に定期的に面談を実施している。また、学生の変化を早期に察知し、随時保護者も交えて情報共有及び対応をしている。

障害者差別解消法の改正に伴い、合理的配慮の提供が義務化するため、規約や窓口の設置など体制の整備を行った。

課題

求人数は多いものの希望する施設への就職が厳しくなっているため、事前選択の際に学生に応じたアドバイスが必要である。

改善の方策

2年次末から就職説明会を導入し選択の幅を広げているが、施設の分析を行い、学生の状況と施設をマッチングさせながら支援をしていく。

学校関係者評価委員会からの意見

成人年齢が18歳となり、学生にも成人としての自覚と責任をもって行動、判断できるように意識づけをすることが必要である。保護者との連携も大切であるが、保護者から「家庭」という捉え方をするように時代も少しずつ変化している。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

就職活動に関して、関連病院がある強みを学生達へ入学時より伝えるなど、自らのキャリアデザインについて考える機会を設けている。2年次に関連病院の見学を目的とした研修旅行を実施し、実習や就職に向けての意識を高めることが出来た。

最終学年に対しては、履歴書や面接の個別指導を徹底しており、細やかな指導をしながら全員の内定を取得することが出来た。両学科とも早期に全員の内定が決定した。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学生の学校生活に関する悩みには、担任を中心に教務全体で早期に対応している。学生が直接スクールカウンセラーに相談ができるように環境が整っており、臨床心理士の方から、より専門的に学生の対応をしていただけている。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学生は成人年齢ではあるが、学業、学校生活をサポートするにはご家族の協力が必要であり、保護者との連絡や支援体制は、適宜行えており、保護者常に連絡・相談・報告など連携を図るこ

とが出来ている。また、看護学科は戴帽式の際に、理学療法学科は保護者説明会の際に、学内で学んだ技術を学生が保護者相手に実際に行い、学生の成長した姿を見てもらい好評を得ている。保護者メールを利用し、行事案内や必要な内容一斉送信できている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

高校・専門学校部会との連携も行いながら、高校生の来校、高校訪問などの際に、看護師・理学療法士の魅力について伝えることができています。新武雄病院とも連携し、職場体験会を設けている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

各種修学支援制度は、今年度も整備し学生が学習しやすい環境となっている。(両学科の特待生制度、職業訓練給付金制度、高等学校修学支援金制度)

項目VI 教育環境

総括

授業に必要な物品の確認・導入を行っており、教育環境を随時整備している。新武雄病院と同じ医療機器を備えており、就職後も安心して医療機器を扱うことができています。図書については、学生管理のもと不明書籍なく運営出来た。

オンライン授業の方法も教員に定着し、スムーズに導入できるようになった。

臨床実習では、看護学科の地域看護実習は地域の施設や職種より協力いただき学びの多い実習が実施できた。

課題

物価高騰により光熱費も高くなった。職員も学生の学びやすい環境を考えながら節電の意識を持つようになった。学生達へ随時学校、寮生活の節電意識への指導も行った。

改善の方策

学内環境整備は、優先順位を考えながら行っていく。臨床実習施設も随時追加しながら充実させていく。

学校関係者評価委員会からの意見

学校設備や実習施設も学習しやすく整えられている。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

■コメント

授業に必要な物品の確認・導入を行った。授業で使用するパソコンを新しく購入し最新のシステムで効果的な講義ができるようになった。開講から15年が経過し、設備等で劣化に伴う不具合が生じたこともあり、適宜対応している。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

【看護学科】

県外、遠方で実施していた実習を近隣で確保し、実習を実施することができた。

【理学療法学科】

今年度も関連病院で計画通りの実習が行われた。今後も遠方の実習施設との情報共有や学生の状況把握をもっと密に行い、すぐに対応できるようにしていきたい。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

消防訓練を実施した。後期は、ハザードマップの確認や災害時の対応などオンラインでの学習会を実施することができた。今後は、避難器具の老朽化や日祝日などの緊急時に向けて体制整備も課題である。

項目Ⅶ 学生の受け入れ、募集

総括

佐賀県職業専門部会と連携を図り、オープンキャンパスや学校説明会、高校訪問やガイダンス等で、学校状況や入試日程について積極的に情報提供している。学校説明会では、在校生がボランティアとして参加し、参加者と直接交流する環境を設定した。このように開かれた学校を意識しながら広報活動を行っている。

長崎方面の広報やInstagramの広報を強化した。Instagramに関しては、ほぼ毎日学校生活の様子を配信し閲覧者も増加している。今年度の学校説明会・オープンキャンパス参加者数は、理学療法学科は例年通り、看護学科は2割減少し、入学試験受験者の減少に影響した。

高校関係者の来校も多く、来校いただいた際は直接学校生活や実態を見学していただくようにしている。

課題

少子化に伴う県内高等学校再編統合や高等教育無償化、大学志向などの影響を受けている。

改善の方策

学校パンフレット、募集要項の作成時期を早め、高校訪問を早期より開始し、学校説明会の案内をこれまでよりさらに強調して伝える工夫をする。在校生の協力を得て、高校へ本校の強みを情報発信していく。

学校関係者評価委員会からの意見

佐賀県内の出生数、学生数は毎年減少しており、今後の学生募集では課題が多い状況が予測できる。医療職者を選択する人も減少している傾向である。看護師、理学療法士を目指す人を増やすためには、小中学生を対象に職業紹介等を行う、病院と連携して地域の行事や活動にも積極的に参加し認知度を増やしていく対策が必要である。

小項目 Ⅶ-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

コメント

例年通り、高校訪問時に対応していただいた教諭の方へ在校生の現状報告も行っている。

高校の校長先生及び教諭の方々の訪問も多く、可能な限り学内見学を通して学生の生活状況を直接見ていただくようにしている。

小項目 Ⅶ-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

コメント

高校訪問時やガイダンス、オープンキャンパスの際に、在校生の進級率、学生支援体制、国家試験の合格率を伝えている。またホームページやパンフレットにも資格取得や就職実績も掲載している。学内には、就職先一覧を掲示し、在校生および来校者への情報提供となっている。

項目Ⅷ 財務

総括

定期的な会計監査が行われており、適正に管理されている。本部からの監査結果も職員全体へ周知し、全員が財務を意識して学校運営に取り組める環境にある。

財務については学生数に影響していくため、多くの学生たちが入学したいと思われる学校づくりを教職員全体で実践している。今年も佐賀県による補助金を活用させてもらうことができた。

課題

物価や光熱費が高騰化してきているため、経費節約に関する職員と学生の意識を高める必要がある。

改善の方策

教職員や寮生へ定期的に諸経費の状況を伝えながら無駄のない経費の運用に努める。

学校関係者評価委員会からの意見

報告の通り、財務も確実に学校運営がなされている。

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適合

コメント

総定員に対する在籍率は100%以下となり、財政の見直しが必要となる。今後も、学生数の減少の可能性はあり、予算の見直し等が必要となる。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

消耗品や光熱費の削減には努めているが、突発的な工事・修理が予算内以上にかかる事象も発生し、常に財務を意識して取り組んでいる。寮生の光熱費も定期的に管理し指導している。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

総括に記載されている通り会計監査を実施しており、今後も継続していく。

項目IX 法令等の遵守

総括

法令を遵守しながら適切に学校運営を実施している。学生へも実習などを通して個人情報の取り扱いの指導を行い、医療人としての遵守事項を周知している。障害のある学生に対する配慮事項についても規程を設け、職員全体への説明会にて周知を図った。

課題

成人年齢の引き下げに伴い、詐欺防止指導なども強化していく必要がある。

改善の方策

守秘義務や情報リテラシーについて1年次より定期的に説明を行っていく。

引き続き注意喚起を図り、リスク管理に努めて欲しい。

学校関係者評価委員会からの意見

引き続きリスク管理を徹底して学校運営をしてほしい。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

法令や設置基準を遵守しており、今後も継続する。新たに設けた規程なども勉強会を実施しながら運用している。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

学校内の情報も漏洩がないように、常に学校長からも職員への周知徹底がなされている。SNS利用時も学生個人が特定されないような対応を実施している。実習中も個人情報保護規定を遵守している。

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

SAGA2024全国障害者スポーツ大会では、1・2年生全員が3日間ボランティアとして活動した。終了後は、県からの感謝状の表彰や各都道府県の選手団より感謝のお手紙をいただき、学生にとって良き経験となった。9月には佐賀救急医学会が本校で開催され、現地ボランティアを務めた。地域の施設ボランティア、地域行事では1年次から積極的にボランティア活動へ多くの学生が参加協力してくれた。

課題

ボランティアの内容だけでなく、身だしなみ、態度、言葉遣いなど場にふさわしい対応ができるように指導していく必要がある。

改善の方策

日頃より、身だしなみ、態度、言葉遣いなど他者へ与える影響を考えさせ、地域連携の大切さを伝えていく。

学校関係者評価委員会からの意見

ボランティアや社会活動に今後も積極的に取り組み、医療人としての温かい心を育ててほしい。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

今年度も地域の要請に応じて受け入れを行った。高校の模擬試験会場、高校入試会場、新武雄病院研修、佐賀救急医学会、佐賀県理学療法士会の研修などへ協力し、施設を活用してもらった。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適合

■コメント

両学科とも講義の一環として地域連携活動も実践し、高齢者や障害のある方々との交流も深めることが出来た。

【総括】

学校運営に関しては、毎年教育方針が明確にされ、職員、学生、保護者共に同じ目標に向けて取り組むことができている。ボランティア活動も積極的に参加し、温かい心を育み人間性を高める教育支援ができている。学校評価では、学生の意見も取り入れて改善できた点や評価が良かった点を前向きに学校評価として考慮しても良いと考える。

少子化、医療関係の進学率が減少し、学生募集は今後も課題が残る。高校生対象だけではなく小中学生に看護師、理学療法士の職業の紹介や魅力を伝えていく、地域の行事等に参加し学校の認知度を高めていく取り組みも今後有用であるのではないかと考える。